

資料編

資料1. 今後の検討作業の方針案

(1) 全ての公園に関わる作業

- ・公園に特徴を持たせたいうえで、相互の連携を検討する
運動：ジョギングコース・サイクリングコースの拠点など
植栽：公園ごとに季節の花々を植え、時期によって訪れる公園が変わるようにするなど
環境：にぎやかな公園・静かにくつろぐ公園など
育児：小さな子供用・大きな子供用・走り回れる公園・ボール遊び・学習する公園など
- ・設置されているトイレの確認と、必要に応じた改修
- ・看板等の確認と更新
傷んでいるもの、情報の古いもの、見にくいものは交換する
- ・遊具の確認と更新
不要な遊具は撤去する
- ・雨天時の利用法を検討する

(2) 「主要な公園（大規模な公園）」に関わる作業

- ・各公園の利活用方針を作成し、市内におけるバランスを確認する。
- ・試験的に北公園を対象とし、利活用方針を具体化していく。
北公園を先進事例として、他の公園の作業を進められるようにする。
毎年1公園の利活用案を作成していく。
状況に応じて、自治体主体の社会実験を実施する。
(フリーマーケット、屋台フェス、ドッグラン、どろんこパーク、野外ステージ、ドッグラン、スケボー、キャンプ、フィールドアスレチック、水辺利用… 等々)
- ・オンラインによる利用申請を可能にする
(事業者の利用・個人の利用とも)

(3) 「身近な公園（中・小規模の公園）」に関わる作業

- ・試験的な実施地域として、川津・持田・朝酌地域を選定する。
その実施状況を踏まえて、順次他の地域においても実施する。

- ・小規模公園の具体的な活用事例を一つ作る
状況に応じて、地域主体の社会実験を実施する。
※小規模公園について、具体的に先進事例を作れそうな地域はあるか？
- ・公園の周辺施設を確認し、地域と連携した利活用を推進する。
(保育園・幼稚園・学校・公民館・老人福祉施設・観光施設等)

資料2. 公園の利活用提案例

(1) 大規模公園の利活用提案 (北公園)

○島根大学学生による活用提案

(2) 小規模公園の利活用提案 (川津・持田・朝酌地区)

○島根大学学生による小規模公園の分析と活用提案

資料3. 他地域における公園の利活用事例

(1) 広場ニスト 山下氏の講演内容

(2) 他地域における特徴的な公園の事例紹介

※現状の公園一覧とカルテ は付けるか？ 量が多すぎるか？